

## カウンセリングを考える⑩ スクールカウンセラーの役割

近年、全国的にスクールカウンセラーの配置が進んでいますが、その機能を十分に活用できている学校がどれだけあるのでしょうか。学校によってはカウンセラーと教師との連携がスムーズにとれ、学校の中にしつかりとした位置づけがなされている（認知され、相談態勢が整っている）というケースもあると思いますが、スクールカウンセラーといういわば「部外者」が学校内での生徒の相談活動に介入することに対して、戸惑いや抵抗感を感じている現場も多いのではないのでしょうか。

現状では、スクールカウンセラーの実際の仕事は『生徒との個人面談』＝『直接的支援』に重点が置かれているように思います。しかし、これだけではその場限りの対応になりがちで、カウンセラー不在時は対応できないという事態になりかねません。また、相談内容などの情報を教師が求めたときに、カウンセラーの守秘義務により提供が制限されるという事態も発生します。こうしたことは、教師とスクールカウンセラーとの間に溝を作る原因ともなり、スクールカウンセラーが介入する相談活動の展開を困難なものにしてしまいます。

スクールカウンセラーに求められる本当の役割は『教師への相談（啓蒙）活動』＝『間接的支援』だと考えています。間接的支援の目指すものは、「教師の対応能力の向上」です。分かりやすくいうと、問題のある生徒への対応をスクールカウンセラーが不在の場合でも、教師が当たれるようになる環境を整えるということです。スクールカウンセラーが教師のコンサルタント的存在、言い換えると「黒子」的存在となることで、学校というコミュニティの中で表に出過ぎずにその専門性を最大限に発揮することができます。具体的な活動としては、開かれた相談室づくり（相談室の環境や便りなどによる広告）、生徒との日常の触れ合い（保健室をはじめ校内へ積極的に足を運ぶなど）、学校行事への積極的な参加、研修会などの企画や呼びかけなどが挙げられます。

スクールカウンセラーは、教師の日常の教育活動に敬意を払いつつ、その教育活動を支えていくことを強調していかなければなりません。そして、「子どもたちの心身の健全育成」という目標に向かって、教師と協働する姿勢を大事にすべきです。



カウンセラー 小林晶子